

## 平成26年度第2回魅力ある農業・農山村づくり検討委員会 議事録

1 日 時 平成26年11月26日(水) 10時00分～11時30分

2 場 所 埼玉県信連浦和分館5A会議室

### 3 出席者

(1) 委員(敬称略)

島田恵司・山口辰雄・高橋優子・高野茂代・中山健太郎・中村みゆき・平井一男

(2) 県

高山農林部長・中畝農業ビジネス支援課長・根岸農村整備課長

(3) 事務局

(農業ビジネス支援課) 原副課長・関口主幹・小野寺主査・角田主任

(農村整備課) 高橋主幹・島田主査

4 主 催 埼玉県

### 5 概 要

(1) 開 会 (司会 原副課長)

(2) あいさつ

ア 高山農林部長

イ 島田会長

(3) 中山間地域ふるさと事業について

- 中畝農業ビジネス支援課長から平成22～26年度実施事業について説明。
- 事業実施地区による取組説明
  - ・河原沢よってがっせー委員会(小坂委員長、高橋事務局長)
- 質疑等
  - ・中村 委員 大学生などの援農体験を受け入れているということだが、子ども向けに食育活動につながる体験を受け入れているのか。
  - ・高橋事務局長 子どもの受入は行っていない。今後は、地域農産物を活用した特産品開発を行う予定である。若い世代の意見も取り入れ、開発を行いたい。
  - ・平井 委員 取組の推進体制はどのようなものになっているのか。農業生産者だけの組織なのか。
  - ・高橋事務局長 部会を立ち上げて、地域一丸となって、垣根無く取組を行っている。交流人口を増やして、観光客に地元の農産物を使った郷土料理や特産品を提供することで農業者の農業所得の向上につなげたい。
- 事業実施地区による取組説明
  - ・小川町腰上地区(福島区長、十文字学園女子大学 鈴木さん)  
中山間「ふるさと支援隊」活動とその受入について
- 質疑等
  - ・中山 委員 昨年度で中山間「ふるさと支援隊」の事業期間である4年間の終期を迎えたということだが、今後どのように継続的な活動を行っていくのか。
  - ・事 務 局 十文字学園女子大学では、事業期間が終了した後、大学が予算を確保し、活動を支援している。
  - ・平井 委員 県南や東部の住民は、小川町のことについて知らない人が多い。どのように広報しているのか。

- ・鈴木 さん 活動内容や地図のデータをブログで紹介している。
- ・平井 委員 ひまわりなどの景観作物は、刈り取りが大変だと考える。手間のかかるものではないか。エキナセアなど手のかからないものはどうか。
- ・福島 区長 区の住民や大学生総出30名程度の人数で刈り取りを行っている。休耕地にひまわりを植えて、花にあふれる地域としたい。
- ・山口 委員 他の大学の支援隊との横のつながりはあるのか。事業終了期間後でも支援隊との交流があった方がよいのではないか。
- ・鈴木 さん 学内では横の連携をとってお互いの地域に足を運んでいる。
- ・島田 会長 私も支援隊活動を3年間、大学で実施していた。大学内でも社会貢献事業に理解を示すようになってきた。継続して実施することに意義がある。
- ・高橋 委員 活動している学生さんはいつか卒業してしまう。継続して地域活性化をしていく場合は、ビジョンを共有しなければならないと考える。
- ・福島 区長 毎年、活動する学生さんが異なる。年度当初に、学生さんと地域の話合いをして、活動の方向性を決めている。
- ・中山 委員 ビジョンは、地域と活動する上では、非常に重要だと考える。地域との話合いを重要視して欲しい。
- ・島田 会長 学生にとっての教育的効果はとても大きい。どのように地域に成果を還元できるかは常に考えなければならない。
- 平成27～31年度事業計画について中畝課長から説明
- 質疑等
  - ・高橋 委員 当事業において、定住人口を増やすためにどのように仕事を作っていくのか。
  - ・中畝 課長 定住人口の増加のためには、雇用を創出する必要があるが、別の事業も活用し、役割分担しながら総合的に行っていく必要がある。
  - ・島田 会長 定住人口を増やすことにつながるように中山間地域の魅力発信するような事業展開ができるとよい。研修事業があるが、どのような方が対象なのか。
  - ・事務局 中山間直接支払の実施地区や中山間「ふるさと支援隊」の受入地区のリーダーの方を対象にしている。
  - ・島田 会長 島根県では、宿泊しながら獣害被害の研修会を大規模で行っている。実践的な内容が参加者数を増やす鍵だと考える。
  - ・山口 委員 鳥獣害対策を行っているということだが、どのような内容を行っているのか。
  - ・中畝 課長 ハード面の補助事業ということではなく、研究開発及び、鳥獣害対策の普及などのソフト事業を行っている。
  - ・島田 会長 直接支払など、他の事業との連携が重要と考える。
- 計画について
  - ・島田 会長 委員から何か事務局案に付け加えること、修正を求めるものはあるか。無いようであれば、事務局案を承認したいがいかがか。(委員からの異議なし) 委員から異議がないことから、事務局案を承認する。

(4) 中山間地域等直接支払制度の最終評価の概要について

- 中畝課長から説明。
- 質疑等
  - ・中山 委員 C要件が実際に機能した割合は、埼玉県ではどの程度であるか。

- ・事務局 協定は結んでいたが、今期には実績が無かった。

(5)多面的機能支援事業について

- 根岸農村整備課長から事業概要の説明。
- 質疑等
  - ・平井 委員 今後休耕田が多くなるなど課題が増えてくると考えられるが、多面的機能支援事業は、県独自のメニューはあるのか。
  - ・根岸 課長 多面的機能支援事業は、いろいろな取組に対し支援できるメニューがあるため、適宜打ち合わせし、支援対象の有無を判断できるよう丁寧な対応をしていく。
  - ・高野 委員 担い手農家を支援していく際、新たに担い手になりたいと考える者には家がない場合がある。多面的機能支援事業で、このような家のない担い手育成者の負担軽減になるような支援は考えられるか。
  - ・根岸 課長 多面的機能支援事業は、担い手者の家対策への支援はないが、いろいろな取組に対し支援できるメニューがあることや、他事業等で対応できないかなど、地域と随時打ち合わせを行いながら丁寧な対応をしていく。
  - ・中山 委員 多面的機能支援事業の内容を周知するにあたって、地域住民にもわかりやすい説明資料とした方がよい。
  - ・根岸 課長 地域住民向けのわかりやすい資料作成に引き続き努めていく。

(6) 閉 会